

## 2016年度事業報告

### I. 研究発表会, 講演会等の開催

#### 1. 第31回国際心理学会議 (ICP2016) / 日本心理学会第80回大会

期日: 2016年 7月24日(日)―29日(金)

会場: パシフィコ横浜

大会会長: 繁樹算男 (帝京大学教授)

#### 2. 公開シンポジウム

##### (1) 「社会のための心理学」シリーズ

###### (a) 紛争問題を考える<全2回>

第1回 政治学・心理学・メディア研究からみた東アジアの国際関係

期日: 8月 6日(土)

会場: 神戸大学六甲台キャンパス 六甲台講堂

第2回 集団間紛争の諸相

期日: 10月 1日(土)

会場: 東京大学駒場キャンパス

###### (b) 医療における心理学の広がりを考える II<全2回>

第1回 期日: 11月 3日(木)

会場: 九州大学西新プラザ

第2回 期日: 11月26日(木)

会場: 東洋大学白山キャンパス

###### (c) 裁判員の判断を左右するもの<全2回>

第1回 期日: 11月13日(日)

会場: 北海道大学 人文・社会科学総合教育研究棟 (W棟)

第2回 期日: 12月11日(日)

会場: 慶應義塾大学三田キャンパス

###### (d) 超高齢社会のコミュニケーションを考える<全2回>

第1回 期日: 10月22日(土)

会場: 東洋大学白山キャンパス

第2回 期日: 11月 5日(土)

会場: 京都女子大学

##### (2) 「科学としての心理学」シリーズ

###### (a) 常識を超える心理学・なぞる心理学 II<全2回>

第1回 期日: 9月 4日(日)

会場: 京都女子大学

第2回 期日: 11月12日(土)

会場: 東京大学駒場キャンパス

###### (b) 自分の顔を探せ! ―鏡が映す顔, 心が映す顔―

(中学生・高校生のための心理学ワークショップ) <全1回 (ICP2016時)・横浜市共催>

期日: 7月24日(日)

###### (c) アニメの心理学II<全2回>

第1回 期日: 10月 2日(日)

会場: 北星学園大学50周年記念ホール

第2回 期日：2017年 3月18日(土)

会場：日本大学文理学部百周年記念館

(3) 高校生のための心理学講座

全国14か所(北海道, 東北, 関東Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 中部Ⅰ・Ⅱ, 関西Ⅰ・Ⅱ,  
中国・四国Ⅰ・Ⅱ, 九州・沖縄Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)

3. ICP2016/第80回大会時日本心理学会企画シンポジウム等

(1) 「調和の中の多様性」シンポジウム (Diversity in Harmony Symposia)

(a) 災害防止と緩和 (Disaster Prevention and Mitigation)

(b) 認知神経科学の新しい地平 (New Horizons in Cognitive Neuroscience: Face-to-face social interactions between two individuals probed by hyperscanning, neuronal recording, and neuroendocrinological approaches)

(c) 心理学の進化的展望 (Evolutionary Perspectives in Psychology)

(d) 法律と心理学 (Psychology and Law in Japan: From the Lab to Applied Knowledge in the Criminal Justice System)

(e) ICTとメディア芸術の心理学的研究 (Psychology and Media Technology)

(2) 公開講座 (Public Lectures)

(a) 日本の教室における多様な学びと心理学の役割～その歴史, 現在, そして今後～

(Diversity of Learning in Classroom and Role of Psychology in Japan: The History, the Present Situation, and the Prospects)

(b) アニメーションにおける運動はどう創造されるのか (How to Create Movement in Animation)

(c) 犯罪捜査への心理学の応用: その歴史, 現状, 将来 (Investigative Psychology In Japan: It's History, Present Situation, Landscape)

(d) 児童虐待からの再生——児童虐待は脳の成熟にどのように影響を与えるか—— (Recovery from Child Abuse: Effects of Child Abuse on Brain Development)

(e) コミュニケーションの質は脳活動の同期で推測できる (Qualitative measures for communicative activities in daily life situations)

(f) 「見るなの禁止」について: 恥の文化における深層心理学 (On the Prohibition of "Don't Look": Depth Psychology in Shame Culture)

II. 学会誌, 研究報告書及びその他の資料の刊行

1. 「心理学研究」第87巻第1号—第6号を刊行した。

2. “Japanese Psychological Research” Vol. 58, No. 2-No. 4 & Vol. 59, No. 1およびSpecial Issue (Commemoration of ICP2016: History of Psychology in Japan and Within the Context of East Asia) を刊行した。

3. 「心理学ワールド」第73号—第76号を刊行した。

4. 「心理学叢書」の刊行

「地域と職場で支える被災地支援——心理学にできること——」(安藤 清志・松井 豊編), 「震災後の親子を支える——家族の心を守るために——」(安藤 清志・松井 豊編), 「超高齢社会を生きる——老いに寄り添う心理学——」(長田 久雄・箱田 裕司編) を刊行した。

### III. 研究及び調査の実施

#### 1. 大学の心理学教育に関する調査・研究

大学における心理学教育調査 単純集計表 (2013年12月ー2015年5月), および心理学に関する調査単純集計表 (2016年8月ー9月) を学会HPで公開した。

#### 2. 心理学の歴史的資料の保存・調査

古典的実験機器類の調査・撮影を行った。

#### 3. オーラルヒストリー

名誉会員へのオーラル・ヒストリー聞き取りを行った。

### IV. 国内の学術団体との学術研究協力

#### 1. 日本学術会議

第31回国際心理学会議 (ICP2016) を共催した。

公開シンポジウム“裁判員の判断を左右するもの——罪を裁く人の心——”を, 日本学術会議 心理学・教育学委員会 法と心理学分科会と共催した。

日本学術会議総合工学委員会主催 “安全工学シンポジウム2016” を共催した。

#### 2. 日本心理学諸学会連合

本会から3名, 理事として参加している。

会費および認定心理士承認料を支払った。

#### 3. 日本脳科学関連学会連合

本会から3名, 評議員として参加している。

会費を支払った。

### V. 国際的な学術研究協力

#### 1. 国際心理科学連合

分担金を支払った。

第31回国際心理学会議 (ICP2016) を開催した。

#### 2. 国際テスト委員会

分担金を支払った。

#### 3. 各国心理学会との研究協力

英国心理学会 協力協定に基づき, 連絡協力を行った。

スウェーデン心理学会 協力協定に基づき, 連絡協力を行った。

ロシア心理学会 協力協定に基づき, 連絡協力を行った。

南アフリカ心理学会 協力協定に基づき, 連絡協力を行った。

韓国心理学会 日韓中三ヶ国シンポジウム (韓国・群山) を開催し, 発表者を派遣した。

中国心理学会 日韓中三ヶ国シンポジウム (韓国・群山) を開催し, 発表者を派遣した。

台湾心理学会 協力協定に基づき, 連絡協力を行った。

インドネシア心理学会 協力協定に基づき, 連絡協力を行った。

フィリピン心理学会 協力協定に基づき, 連絡協力を行った。

マレーシア心理学会 協力協定に基づき, 連絡協力を行った。

インド心理学会 協力協定に基づき, 連絡協力を行った。

アメリカ心理学会 協力協定に基づき, 連絡協力を行った。

オーストラリア心理学会 協力協定に基づき, 連絡協力を行った。

#### 4. Asia-Pacific Psychological Alliance (APPA)

12月28日・29日に開催されたAsia-Pacific Psychology Meeting (India) において設立された

Asia-Pacific Psychological Alliance (APPA) に加盟した。

## VI. 研究の奨励及び研究業績の表彰

### 1. 公益社団法人日本心理学会優秀論文賞の選考・授与

2015年度刊行の「心理学研究」掲載の原著論文、研究資料、および“Japanese Psychological Research”（特集号を除く）掲載のOriginal Articleのうちから選考委員会において受賞論文を決定した。2016年度会員集会時に授与式を行った。

#### <優秀論文賞>

##### (a) 連続性犯罪の事件リンク分析

著者：横田 賀英子・渡邊 和美・和智 妙子・大塚 祐輔（科学警察研究所）・倉石 宏樹（滋賀県警察本部）・藤田 悟郎（科学警察研究所）

掲載：心理学研究第86巻第3号

##### (b) Categorization and understanding of facial expressions in 4-month-old infants

著者：金重 利典・針生 悦子（東京大学）

掲載：Japanese Psychological Research Vol. 57 No. 2

##### (c) A cognitive-behavioral model of anxiety disorders in children and adolescents

著者：石川 信一（同志社大学）

掲載：Japanese Psychological Research Vol. 57 No. 3

### 2. 公益社団法人日本心理学会国際賞の選考・授与

国際賞選考委員会にて、国際賞授賞者を選考した。2016年度会員集会時に授与式を行った。

#### <特別賞>

下條 信輔（カリフォルニア工科大学生物工学部・生物工学部教授）

#### <功労賞>

内田 伸子（十文字学園理事・十文字学園女子大学特任教授・お茶の水女子大学名誉教授）

#### <奨励賞>

石井 敬子（神戸大学大学院人文学研究科准教授）

宮田 裕光（東京大学総合教育研究センター准教授）

内田 由紀子（京都大学こころの未来研究センター特定准教授）

### 3. 公益社団法人日本心理学会心理学ミュージアム作品賞の選考・授与

心理学ミュージアム展示室に掲載する作品を公募し、応募作品から優秀作品賞授賞作品を選考した。2016年度会員集会時に授与式を行った。

#### <最優秀作品賞>

見えないものが見えている——盲点補完——

著者：黒田 剛士（静岡大学）

#### <優秀作品賞>

なぜ赤ちゃんは指さしするのか？——言葉を話す前の赤ちゃんによる指さし——

著者：岸本 健（聖心女子大学）

### 4. 研究集会等への支援

24件の研究会へ助成を行った。

### 5. 国際会議参加者への旅費補助

18名の国際会議参加者への旅費補助を行った。

### 6. 災害からの復興のための実践活動及び研究の助成

第1回「災害からの復興のための実践活動及び研究」を公募し、4件に助成を行った。

## VII. 資格認定及び研修

### 1. 公益社団法人日本心理学会認定心理士資格の審査と授与

2017年3月31日現在、総件数3,752件（うち電子申請17件）を審査し、3,561名を合格、47名を不合格、144名を保留とした。

現在までに必要な手続を経て資格を取得した者は3,508名であった。

### 2. 公益社団法人日本心理学会認定心理士（心理調査）資格の審査

2016年6月1日より、大学からのカリキュラム認定申請の受付を開始した。

2017年3月31日までに、48大学から102件の申請があり、検討を行った。

### 3. 公益社団法人日本心理学会認定心理士研修会

I-2. 公開シンポジウムおよび、VIII-4. 認定心理士の会シンポジウム・ワークショップと連動して開催した。

### 4. 認定心理士データベースの構築

認定心理士、および認定心理士（心理調査）の電子申請を開始した。

### 5. 教科書等の刊行

「＜認定心理士資格準拠＞実験・実習で学ぶ心理学の基礎」が重版となった。

## VIII. その他目的を達成するために必要な事業

### 1. 心理学の普及・啓発のための広報活動

“心理学ミュージアム”に作品を掲載した。

### 2. 倫理規程の継続的な検討・倫理問題の解決

倫理委員会において、所管事項を審議した。

### 3. 選挙の実施

#### (1) 選挙台帳作成

選挙台帳を作成し、JPAマイページで公開した。

#### (2) 代議員・役員選挙の実施

代議員・役員選挙を実施した。

### 4. 認定心理士の会

2016年4月1日より、認定心理士の会を発足した。

2017年3月31日現在の会員数は、3,123名であった。

認定心理士の会ニューズレター Vol.0-Vol.6を発行した。

以下のようなシンポジウム・ワークショップを開催した。

#### (a) キックオフシンポジウム

テーマ：人間社会に貢献する心理学——その可能性を考える——

期日：5月22日(日)

会場：東洋大学 白山キャンパス

#### (b) 関西ワークショップ

テーマ：実践！こころを支える心理学—メンタルヘルスを維持・増進するための心理学

ワークショップ—

期日：9月17日(土)

会場：立命館大学 大阪いばらきキャンパス

#### (c) 東北公開シンポジウム

テーマ：心理学を被災地に活かそう！

期日：12月17日(土)

会場：東京エレクトロンホール宮城

5. 若手の会

2017年3月31日現在の会員数は、124名であった。

若手の会ニューズレター 第1巻第1号、第2号を発行した。

コラムリレー第17回—第27回を発行した。

以下のようなキャンプセミナーを開催した。

(a) 異分野間協働懇話会

期日：2017年 3月6日(月), 7日(火)

6. その他

(1) 学会90周年

日本心理学会90周年記念事業として、本年度の公開シンポジウム、歴史的資料の保存・調査、及び災害からの復興のための実践活動及び研究の助成を行った。

その他、記念事業の検討を行った。

(2) 部門・部会制の検討

“認定心理士の会”を発足した。

以上